



医療人能力開発センター & 医学教育センター

Wind

News letter No.41

No.1-40は「GUNMAS」およびHPに掲載しています

医療人能力開発センターホームページ

<http://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

こちらから入って各部門をクリックしてご覧ください。



2015.2.19 No.41

医療人能力開発センター

臨床研修センター/スキルラボ部門
女性医師等教育・支援部門
看護職キャリア開発センター(仮)
地域医療支援センター(群馬県)

内線 7736 E-mail: c-center@ml.gunma-u.ac.jp

医学教育センター

内線 8017

E-mail: cme.gunma.univ@gmail.com

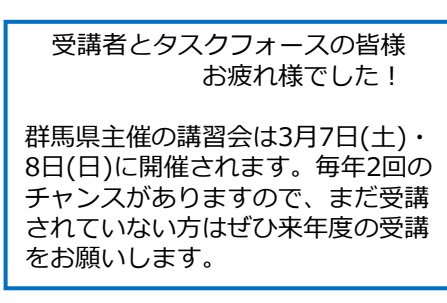
平成26年度 群馬大学医学部附属病院 臨床研修指導医養成講習会

2015年1月24日(土)・25日(日)

毎年恒例となりました本院の平成26年度指導医養成講習会が、1月24日(土)・25日(日)の2日間、アメニティ講義室を会場に開催され、院内・院外の各診療科・病院からご推薦いただいた計32名(院外9名)の先生方が受講されました。

ご参加の先生方には、5つの班に分かれて様々なグループワークなどに取り組んでいただきました。専門分野も臨床経験も異なる皆様に、しばしの間ではございますが、忙しい診療を離れて情報交換を行っていただく場としてもお役立ていただきたいと考え、タスクフォース・スタッフ一同、力を合わせました。ミニレクチャー、ロールプレイ、精神科神経科・藤平和吉先生による特別講演「研修医のメンタルヘルスケア」など、盛りだくさんな2日間でしたが、お楽しみいただけましたでしょうか？ ご参加の皆様、大変お疲れ様でございました！

指導医養成講習会修了証は、全国一律の臨床研修指導医資格です。今回受講できなかった先生方も、またの機会のご受講を、ぜひご検討いただけますようお願いいたします。



終了後アンケートより 講習の内容や運営、良かった点(抜粋)

- ・ロールプレイ・討論・発表が沢山ありとても有用でした。
- ・指導する上で、必要なことを具体的に学べたのがとても良かった。
- ・思っていたよりずっと内容の濃い講習会でした。とても勉強になりました。
- ・グループディスカッションなど日頃あまりやらない手法で講習でき、自分の理解・記憶の定着に役立った。講習で学んだことすべてが実践できれば理想ですが、現実にはそういかない場面もあると思うので、そういった変化球が来た場合の対処法や優先順位など知れたらと思った。
- ・今までの診療、研修医との付き合いで気づかなかった点に多々気づけてよかったです。
- ・託児保育があり、大変助かりました。(なければ受講できませんでした)ありがとうございました。
- ・研修医の頃の気持ちを思い出し、初心に戻って頑張ろうと思いました。



新シリーズ 私たちの部署、紹介します

ICU ただいま研修中 / 4333コール、ご利用ください

ICUが17床に増床し、早くも半年が過ぎようとしています。大忙しながらも指導熱心なベテラン先生方のもと、研修医、シニアレジデントが日々はつらつと頑張っています。

1月某日、ICUローテーション中の研修医、シニアレジデントの先生方に研修の感想をうかがいました。また、院内CPAを減らそうと取り組んでいる、RRSについてもご紹介いただきました。

研修医2年目 萩原 優美子先生

全身管理に必要な知識や技術に関して1つ1つ丁寧に教えていただいて、とても勉強になりました。初めて学ぶことも多く、知識不足に悔しい思いをすることもあります。楽しく研修させていただいています。

研修医2年目 宮川 真梨江先生

1か月間の短い研修ではありましたが、様々な手技を経験させていただきました。特にHDやCHDFなどは普段自分で行うことのない手技なのでとても勉強になりました。

泌尿器科シニアレジデント 馬場 恭子先生

術後管理だけでなく、院内/院外救急対応についても幅広く学ぶ機会に恵まれ、専従医からは豊富な知識を得ることができ有意義な研修をさせていただいています。

外科シニアレジデント 矢澤 友弘先生

ICUで過ごした時間は外科医として必要な術後管理を勉強するのにとても有意義な時間でした。またここで研修したいです。



左から、萩原先生、宮川先生、馬場先生、矢澤先生



毎週月曜日、朝のカンファレンス
死亡症例検討、勉強会などを行っています

■ Rapid Response Systemについて

院内の急変コール(4444)の内訳を調べたところ、4割ほどがCPAになってからのコールでした。院内のCPAを未然に防ぐ目的で、Rapid Response Systemを導入しました。

これは、あらかじめ決められたバイタルサインの基準になったら、決められた番号4333をコールしていただき、CPAになるのを防ぐことを目的としています。昨年7月より運用を開始して、現在まで17回のコールを受けています。

今後は、広く知っていただけて有効活用していただき、院内の予期せぬCPAが減少することに繋がりたいと思います。

バイタルサインの基準を満たすこと以外にも、集中治療の適応やICUのベッド状況など気軽に問い合わせいただければと思います。

(ICU 戸部 賢)

“4333” をコールするとその時のICUリーダー医師のPHSに繋がります。

【コールの目安となる基準】

急性に生じた下記の変化

- 心拍数 <40または> 120
- 収縮期血圧 <80
- 呼吸回数 <8または> 30
- 意識レベルの変化
- 酸素投与下でSpO2 <90%
- 気道トラブル（気道閉塞、呼吸音の異常、気切チューブ管理上の問題）
- 制御困難な痙攣
- 4時間の尿量が50ml未満

臨床医のための統計セミナー「これだけは知っておきたい臨床統計」

2015年1月10日(土)

臨床医のための統計セミナー「これだけは知っておきたい臨床統計」を2015年1月10日(土)に開催しました。講師は、本学保健学研究科の林 邦彦先生にお願いしました。69名(学内41名/学外28名)もの参加があり、今回のセミナー内容に対するニーズの高さを示すものと思われま

臨床研究の基本ですが意外に難しい、またきちんと学ぶ機会の少ない「研究デザイン」から「データの要約と表示」「仮説検定の仕組み」「統計学的検出力とサンプルサイズ」までを、盛りだくさんな内容で講義していただきました。

盛りだくさん過ぎて、「3時間位講演していただいてもいいと思われる内容でした」という感想もみられ、非常に好評でした。

とくに「研究デザイン」と「サンプルサイズ」に対する関心は高く、より詳細な説明を求める意見もありました。今回いただいた感想もふまえつつ、先生方のニーズに即したテーマを取り上げ、今後もセミナーを開催していきたいと思



超初心者向け「SPSS講習」開催します！！

超初心者向けの「SPSS講習：60分で操作の基礎をマスター」を開催します。

本学では、統計ソフトSPSSが無料で使用可能ですが、「使ったことがない」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

SPSSは、基本操作ができれば、高度な解析に進んでも、手順に大きな違いはありません。この機会に、SPSSの基本的な操作方法(データ入力・データのまとめ・t検定・ χ^2 検定・回帰分析)をマスターしませんか？

○開催日時：同内容で、2日間開催

①2015年2月27日(金) 18:30~20:00

②2015年3月 7日(土) 14:30~16:00

○講師：群馬大学非常勤講師 藤田 晴康 先生

○開催場所：情報処理演習室A(共用施設棟3階)

○内容：基本操作解説+操作に関する個別相談

お申し込みは、①2月20日(金)、②2月末日までに希望日を明記のうえ、メールにてお願いいたします。

配布資料等を準備する都合より、事前申し込み制とさせていただきます。

統計セミナーに関するお問い合わせ・お申込み
医学教育センター 井手野
E-Mail: cme.gunma.univ@gmail.com

「画像診断セミナー」開催します！！

多数のご要望をいただいていた「画像診断セミナー」を開催します。画像診断の基礎からAiの話題まで、診断のプロフェッショナルが、わかりやすく解説します。多くの先生方の参加をお待ちしております。

○開催日時：2015年3月14日(土) 14:30~16:45

○講師：群馬大学放射線診断核医学

教授 対馬 義人 先生

助教 平澤 聡 先生

助教 宮崎 将也 先生

助教 岡内 研三 先生

○開催場所：臨床中講堂

お申し込みは、3月6日(金)までに、メールにてお願いいたします。配布資料等を準備する都合より、事前申し込み制とさせていただきます。

画像診断セミナーに関するお問い合わせ・お申込み
医学教育センター 菊地/井手野
E-Mail: cme.gunma.univ@gmail.com

医療人能力開発センターメンバーより ～ 子育て奮闘中 ～

地域医療支援センター 羽鳥 麗子

3つ子を出産、職場復帰して、ちょうど1年が経ちました。春に2歳を迎えるだんご3兄弟と長男の4人の男子に囲まれ、毎日が慌しく過ぎていきます。夜中、まだまだ手がかかる1歳児。眠いのをこらえて仕事をするのも多いのですが、家族や職場のスタッフに温かく見守られながら、なんとか勤務を継続させていただいています。

所属する医療人能力開発センターでは、地域医療支援センターの一員として、群馬県内で活躍する医師を増やすべく、微力ながら活動を行っています。具体的には、医学部進学希望のある高校生向けの病院体験セミナーや医学生向けの医師職場体験セミナーの開催、医学部卒業後のキャリア形成を支援するためのぐんま地域医療リーダー養成キャリアパスの作成などです。

仕事と家庭の両立は、どこの家庭にとっても大きな問題かと思えます。私自身がうまく両立できているとは到底言えないのですが、3つ子たちが3カ月の頃から、医師会に推薦していただいた2名の保育サポーターさんにお世話になっております。出勤前、保育園に登園するまでの子供たちの世話や家事手伝い、保育園から帰宅後の食事や入浴の介助、寝かしつけ、外来受診の同行、時には長男（小学4年生）のしつけの相談相手？などです。

限られた時間の中ですが、自分でできること、そして、やりたいことが今の職場にあります。一日一日、病院スタッフとして活動できる時間を与えてくれている、元気な3つ子に感謝、それを支えてくれている家族、保育サポーターさんに感謝、大きな理解をいただいている職場スタッフに感謝です。



日本小児栄養消化器肝臓学会にて（2014.10）
小児科消化器グループメンバーと3つ子たち

編集後記（2015.2.19）

先日、医療人能力開発センターも協力し、群馬大学男女共同参画推進室で研究力アップ講座を開催しました。第1回が「研究活動に役立つデザインの基本」、第2回が「研究活動に役立つプレゼン～日本語でも英語でも基本は同じ～」、大変興味深かったので、この場を借りて紹介したいと思います。

伝わるデザイン、伝わるプレゼン、考えたことがあるでしょうか。

例えば ・スライドで暗いバックに赤字で強調したつもりの文字 ⇒全然読めません。

・レーザーポインターでずっと指しながらのプレゼン ⇒聴衆に背を向けては伝わらないのでは。

頑張った成果の発表が、ちょっとしたポイントを抑えることで、より魅力的なものにできる、見せ方でこんな変わるというお話でした。パワーポイントのお勧めフォントはメイリオ、これはクリアタイプフォントと呼ばれる処理で文字の輪郭を滑らかにすることで美しく表示され、読み手の目にも優しいという利点があるのだそうです。私も最近はずっかり、パワーポイントはメイリオで統一しています。文書や目的によってもお勧めフォントは違います。行間の調節、一行の調節、箇条書きの見せ方、レイアウトのとり方など、ちょっとした工夫で読み手にやさしいものになるということを実感しました。詳しくは「伝わるデザインの基本」（技術評論社）をご覧ください。まゆだま広場でも貸し出しています。

プレゼンは準備が大事、プレゼンの9割は台上に上がる前に決まる、まずストーリーと一番伝えたいメッセージを考える。聴衆にどんなメリットを与えられるか、WITFM(What's in to for me?)の言葉は印象的でした。相手にとってのメリットを考える、これは日常の仕事にも役立つことだと思いました。次号のまゆだま通信でも紹介します。きれいなスライドの参考になるお勧め本は、「プレゼンテーションZen」（ピアソンエデュケーション）です。

こんなポイントも考えると言いたいことが伝わりやすくなる、とわかったのですが、悩みの種は、いつもぎりぎりに仕上げたプレゼンに突入しなければならないということ・プレゼン前には時間をかけて納得いくものにするまで準備、がこれからの目標です。

あっという間に今年度も終わります。来年度はどうなることか、日々、目の前のことをひとつずつ進めたいと思います。（YN）